

国際交通安全学会 設立三十周年にあたって



国際交通安全学会会長 越 正毅

現代の人間活動は大量の人と物資の移動を前提として成り立っています。自動車の発明は、この人類の移動に対して、質的にも量的にも多大な変化をもたらし、人々は豊かな暮らしを享受することになりました。しかしながら、同時に交通事故、混雑、環境負荷などの深刻な問題をももたらし、持続可能で良質なモビリティを確保することがきわめて重要な課題となっています。

国際交通安全学会は、交通とその安全のための科学を通じて、国際的視野からその課題に取り組むことを目的に、交通社会のあり方を自由に討議し、研究する場として1974年に設立され、ここに30年の歴史を刻むこととなりました。この間、交通というさまざまな分野が複雑に絡み合った命題に対し、学際的研究を柱に、単独の分野では究明しきれない課題の研究や、国の政策への提言、交通分野における国際協力など多くの成果を社会に発信して行くことができました。

このような国際交通安全学会の活動は、学会を内外で支えてくださる多くの方々のご理解とご協力の上に成り立ってきたものと深く感謝いたしております。

設立以来30年を経過するわけですが、ふり返ってみますと、学会設立時の会員はすべて顧問に就任し、現在の学会は新しい世代の会員によって運営されております。30年を経て、社会情勢も大きく変化してきております。国際交通安全学会が設立された当初と比べ、モビリティ社会の広がりや技術の革新とともに、交通の安全や円滑化に加え、環境・バリアフリー・市民参画のまちづくりなど新たな課題も出てきて、交通の中に新しい専門分野や考え方の導入が求められています。現在の会員の皆様が、学会設立時の熱意を継承しつつ、こういった新しい課題に積極的に取り組んでくださっていることは、たいへんありがたいことと感じております。

国際交通安全学会は、これからもさまざまな分野の研究者が協力して、より質の高い研究活動と、次世代を担う交通研究者の育成のための支援を行っていきたいと考えております。

皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜ることを切にお願い申し上げます。